

《健康講話開催報告》

日時：平成27年10月22日（木）10時～11時30分

下前田前沖会館にて、加藤洋子先生による「糖尿病とは」と題した健康講話を開催致しました。27名ご出席いただき、質疑応答の時間ではたくさんのご質問を受け盛況のうちに終了することができました。

当院では今後もこのような活動を続けて参りたいと考えておりますので、患者さん等からご意見ご要望等がございましたら是非ご連絡ください。



規則正しい
食生活を!

《医療総合支援部 地域連携室スタッフ》

(医療総合支援部長 副院長兼務)	遠藤 公人
(内科診療部長 兼務)	原 右
(副看護部長 併任)	佐々木 葉子
(地域連携室 副看護師長)	澤村 弘美
(医療社会事業専門員)	加藤 弘江
(医療社会事業専門員)	大庭 郁美
(地域連携室 事務員)	佐藤 桂子
(医事課入院係長 兼務)	小田島 善広
(医事課課員 兼務)	飯島 恒

発行：独立行政法人 地域医療機能推進機構 仙台南病院

仙台市太白区中田町字前沖 143 番 (代表) TEL 022-306-1711 FAX 022-306-1712

地域連携室 (直通) TEL022-306-1740 FAX022-306-1741

E-mail:renkei@sendainami.jcho.go.jp



ジェイコー JCHO 仙台南病院

Vol.26

2015.11

連携室だより

[病院の理念]

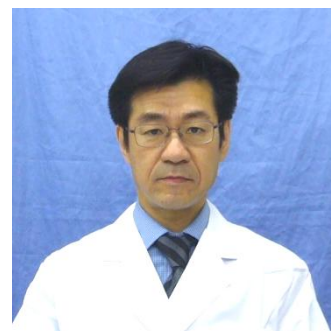
本院は、地域社会における中核的な先進医療保健施設として、地域医療の充実と国民保健の向上に貢献します。

[病院の基本方針]

1. 急性期医療を担う地域の中核病院として、安全かつ良質な医療を行うために適切な説明と同意に基づいたチーム医療を推進します。
2. 地域の医療・介護福祉施設と連携を図りながら高齢者にも対応できる幅広い医療を提供します。
3. 個人情報厳格に保護し、診療内容に関しては真実説明で対応します。
4. 全職員が自己研鑽に励みながら一丸となって地域医療に取り組みます。

ご挨拶

あさくら とおる
院長 朝倉 徹



院長の朝倉です。皆様には平素より多大なるご厚情を賜り心より御礼申し上げます。

さて当院が前身の宮城社会保険病院から独立行政法人であるJCHOへ移管されて1年半が経過しておりますが、その間当院の置かれた内外の環境は大きく変化してきております。循環器内科医の退職などに伴い、ご紹介いただいた救急患者様の受け入れに支障をきたす事態も生じており、皆様にご不便をお掛けすることがあるかと陳謝申し上げます。

一方で昨年から開設した地域包括ケア病棟では、手術など急性期の治療を終わってもすぐに自宅には戻れない患者様に対して必要なリハビリを中心とした慢性期のケアを行っております。また、JCHOは地域の在宅医療や介護サービスを行っておられる民間の医療者などと連携して、地域包括ケアシステムを構築するという使命があります。当院でもそのための地域協議会の開催を予定しております。このように当院の置かれている立場はより地域に寄り添った医療、介護を提供することではありますが、将来の病棟機能再編のため地域医療構想も検討され始めておりますので、これを踏まえて地域に必要な病院作りをしたいと思っております。

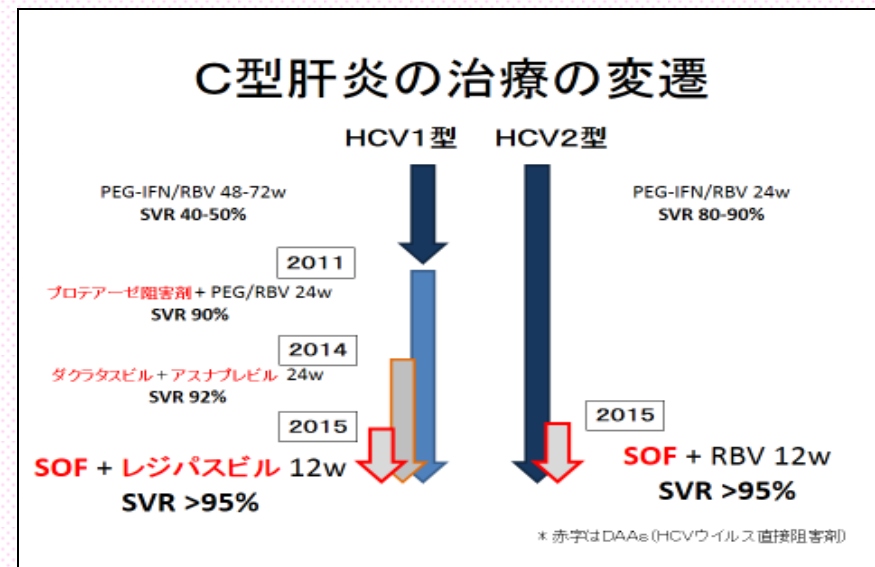
また、10月1日に整形外科の後藤昌子部長が着任しましたので、同科も待望の二人体制となりました。院内で可能な手術症例も増えることと期待されます。また、従来から呼吸器内科の要望がありましたので、週1回ではありますが10月16日から呼吸器内科を開設しました。仙台厚生病院呼吸器内科より応援医師がコンサルテーションを中心に診察を始めましたので、どうぞご利用下さい。

さて、例年ご案内申し上げて参りました「連携の集い」を今年度も開催させていただき運びとなりました。2月10日(水)にホテルメトロポリタン仙台で予定しておりますので、皆様のご参加をお待ちしております。

【 C 型肝炎治療・新しい治療の到来 】

きさらのりひろ
消化器内科部長 木皿 典宏

皆様もニュースでご存じかもしれませんが、平成 26 年 9 月から従来の C 型肝炎のキー・ドラッグであったインターフェロンを使用しない、HCV ウイルス直接阻害剤の内服治療がスタートしております。最初に使用可能になったのは 1 型 HCV に対する治療薬「ダクルインザ+スンペプラ 2 剤併用療法(24w)」でした。この治療では薬剤耐性のない方に使用すると 92%の期待値でウイルス消失に至ります。また、驚くべきことに自覚する副作用がほとんどありませんでした。平成 27 年 5 月には 2 型 HCV に対する「ソバルディ+リバビリン 2 剤併用療法(12w)」、平成 27 年 9 月には 1 型 HCV に対する「ハーボニー (NS5A 阻害剤・NS5B 阻害剤の合剤) (12w)」が使用可能となりウイルス消失率は 95%以上が期待されます。インターフェロンが無効であった患者さんや、インターフェロン治療で副作用中止となった患者さんには朗報となりました。



新任医師紹介

ごとうまさこ
リハビリテーション科診療部長 (整形外科) 後藤 昌子

平成 27 年 10 月に赴任して参りました。仙台生まれ、仙台育ちで、平成 3 年に東北大学を卒業後、仙台市内はもとより、宮城県内、秋田、岩手、福島でも勤務し、今回は仙台赤十字病院から異動になりました。これまで乳児股関節脱臼健診をはじめとした小児整形外科診療を中心に、成人の股関節、足部疾患の治療に携わってきました。

地域の皆様に貢献できる様に頑張りますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

<所属学会・資格等>

日本整形外科学会 (指導医・専門医)、日本小児整形外科学会 (教育研修委員)、日本小児股関節研究会 (幹事)、日本股関節学会 (評議員)、東北整形災害外科学会、東日本整形災害外科学会、日本足の外科学会、日本靴医学会、日本自己血輸血学会、日本リハビリテーション医学会、日本二分脊椎研究会、日本創外固定・骨延長学会、日本イリザロフ法研究会



職場紹介

さとうゆうき
リハビリテーション科 主任 佐藤有紀

当院リハビリテーション科では、外科開腹術後の患者様の早期離床、大腿骨骨折や脊椎圧迫骨折などの整形外科疾患、肺炎などの呼吸器疾患など一般急性期疾患のリハビリテーションを実施しております。昨年 10 月には地域包括ケア病棟を新規開設し、急性期治療を終えた患者様に対し、退院後の生活を安心かつ安全に迎えられるよう日常生活を重視したリハビリテーションも実施しております。地域包括ケア病棟開設当初は、スタッフ全員手探り状態であり戸惑いと不安が大きい日々でしたが、1 年が経過し、より良い方法を模索する毎日ですが何とか軌道に乗ることができました。

これからも、患者様・ご家族様が安心して退院の日を迎えられるよう、医師・看護師・MSW・地域連携室など他部門のスタッフと協力し合いながら日々努力して参ります。

リハビリテーション科スタッフは、理学療法士 4 名、作業療法士 1 名、言語聴覚士 1 名、鍼灸あん摩マッサージ師 2 名 (常勤 1 名、非常勤 1 名) の計 8 名と少人数ではありますが、少人数だからこそコミュニケーションを密にとり、リハビリテーション科として患者様・ご家族様に何が出来るのかを考え、さらなる質の向上を目指します。



MRI・CT 遠隔読影診断のご利用案内

昨年 12 月より始めております遠隔読影のご利用方法をお知らせ致します。読影までご希望される場合は、専門医の読影による診断結果を当日もしくは翌日 13 時までにご報告出来るようになっております。

単純撮影に限りますが、胸部異常陰影の精査、脳血管障害を疑われた時、外傷の精査などその他該当される患者様がいらっしゃいましたら是非ご利用下さい。

◎検査受託との違い◎

- ・専門医による読影を依頼する為、**紹介状を頂戴し、カルテを作成いたします** [お待たせしないよう対応致します]。
 - ・検査後は患者様にフィルムもしくは CD-ROM をお持ちいただき、**紹介元の先生より結果説明を受けて頂きます**。
- 診断結果は先生のご希望に合わせ当日中 (撮影後 2 時間以内) もしくは翌日 13 時まで地域連携室より FAX にてご報告させていただきます。 ※外来受診後検査を行いますので保険請求は当院にて行ないます。